

# ブラウン管テレビ響き11.6%増

## 環境省調べ 09年度の廃家電不法投棄台数

環境省はこのほど、09年度廃家電の不法投棄等の状況について取りまとめた。家電4品目（エアコン、ブラウン管式および液晶・プラズマテレビ、電気冷蔵庫・電気冷凍庫、電気洗濯機・衣類乾燥機）の全国の不法投棄台数（推計値）は13万3207台で前年度と比べ11.6%増加となり、03年度をピークに減少傾向を示して以来、初めて増加に転じた。この大部分をブラウン管式テレビが占めており、来年7月の地上デジタル放送完全移行を控え、対策が課題となっている。

09年度の廃家電4品目の不法投棄台数のデータを取得している1469自治体における廃家電4品目の不法投棄台数を基に、人口カバレッジ率で割り戻して算出した全国の不法投棄台数（推計値）は13万3207台。この構成比を品目別に見ると、ブラウン管式テレビが64%を占めている。そのほかは電気冷蔵庫・電気冷凍庫が20.8%、電気洗濯機・衣類乾燥機が12.4%、エアコンが1.9%、液晶・プラズマ式テレビが0.3%となっている。

ブラウン管式テレビはここ数年液晶・プラズマ式への切り替えや地デジ対応などで買い替えが進み、その分不法投棄も増加傾向にある。来年7月の地デジ完全以降までにまだ買い替えは続きそうで、さらに不法投棄が行われることが懸念されている。

また、ブラウン管式テレビについては、正規のリサイクルルートに乗ったものでも、これまで一部のアジア諸国などで使われていた需要が今後見込めなくなるため、リサイクル品の出口先を早急に確保することも喫緊の課題となっており、官民挙げての検討が進められている。